"It is A(djective) of NP to VP" 構文における of の意味的・統語的特徴

松原史典

本研究は、"It is kind of you to take so much trouble." のような「人物」 (you) と「行為」(to take so much trouble) の両方を評価する形容詞述語 (e.g. kind) に焦点をあて、本構文に生起する of および of NP の意味的特徴を解明し、of の統語的特徴と本構文の統語構造と派生を分析する。(ページ制限のため、発表内容のうち、必要最小限の例文、提案、引用文献の提示にとどめておく。)

1. of の統語構造

of の統語範疇については、前置詞であるのか、それとも補文標識であるのかという曖昧性が生じる。しかし、(1)-(2) の対比から、of NP が to 不定詞節と分離して生起することが分かる。したがって、of は補文標識ではなく、前置詞であると提案する。(1a, b) の | は音声的ポーズを表す。

- (1) a. It is kind of you | to take so much trouble.
- (2) a. To take so much trouble is kind of you.
- b. *It is kind | of you to take so much trouble.

 b. *Of you to take so much trouble is kind.

 of が補文標識でなく、前置詞であることは、*That's very kind of you.* (OED¹⁰) のように、of NP が to 不定詞節を伴わないという事実からも支持される。さらに、 (3)-(4) のように、of が補文標識 for / that と共起することからも、of が前置詞であることが証明される。
 - (3) a. It was stupid of Tracy_i for her_i to spend all the money.

 b. For Tracy_i to spend all the money was stupid of her_i.

 b. That you_i took so much trouble was kind of you_i.

 以上から、本構文の形容詞述語は、「行為」を表す節として、次の3タイプの CP を選択する。
 - (5) It was kind [PP of youi] {[CP PROi to take so much trouble] / [CP for youi to take so much trouble] / [CP that youi took so much trouble]}. (PRO は発音されない非定形節の意味上の主語に該当する。)

2. of に選択される NP の意味的条件

これまでの先行研究では、「of NP の NP は有生でなければならない」と想定されてきた (e.g. *It was absurd of the light to flash all night.) (Hornby 1975, Silva and Thompson 1977, etc.)。 しかし、 (6a) のように「擬人化」された NP や (6b) のように「人を連想させる」NP であっても容認可能である (e.g. sin:「罪」 \rightarrow 「罪人」)。

- (6) a. t was nice of **the rain** to come today. (Bolinger 1977: 142)
 - b. It's so tiresome of our little sins to look foolish when they're found out, instead of wicked.

(Maugham, W. S., *Penelope*)

3. 「行為」を表す補文主語の意味的条件

- (5) から分かるように、「行為」を表す補文主語は、of に選択される NP と同一人物でなければならない。これまでの先行研究では、「補文主語(= of NP の NP)は、動作主 (Agent) でなければならない」と想定されてきた (e.g. *It is ridiculous of Lucy to resemble her father.) (Wilkinson 1970, Bolinger 1977, Silva and Thompson 1977, etc.)。しかし、(7) が示すように、この想定は正しくない。(7a-c) の感情・心理を表す述部 (lose my temper/worry .../be so philosophical ...) は主語に動作主ではなく経験者 (Experiencer) を選択することに注意したい。
 - (7) a. It was stupid of me to **lose my temper**. (LDCE⁴) b. It's nice of you to **worry** about Marjorie. (BNC)
 - c. It's nice of you to **be so philosophical** about it. (BNC)

また、(7c) のように、 述語に形容詞が出現する場合、 so などの強意語を伴うことが多いことも特徴的である。 so により、感情・心理の一時的・瞬間的な変化が示され、「動的な推移」が読み取れる。

以上より、上記の先行研究の想定を修正し、(8)の意味的条件を提案する。

(8) 補文主語は、動作・出来事を遂行する主体 (Agent/Causer)、意図的に出来事を経験する主体 (Theme)、または一時的な感情・心理の変化を経験する主体 (Experiencer) でなければならない。

4. of の意味特徴

本構文の形容詞述語 (e.g. kind/stupid) を通時的に分析すれば、もともとは「形容詞+名詞」(e.g. a kind act/thing) の形で出現し、「人物」と「行為」の両方ではなく、「行為」のみを評価していたことが分かる。また、「行為」を表す補文は、歴史的には、 to 不定詞節よりも先に that 節として出現していた (OED 2 s.v. af 16)。

(9) Is it not a blind thing of the world that either they will do no good works, .. or will .. have the glory themselves? (1532, TINDALE, *Expos.*, in OED²)

したがって、述語が「形容詞+名詞」から「形容詞」 (e.g. $a \ kind \ act \rightarrow kind$) へと変化することで、「人物」と「行為」の両方を評価するようになったと推測できる。また、of については、1800 年頃から 1900 年頃に出現した in の影響受けた結果 (e.g. $It \ would \ be \ a \ kindness \ in \ you \ to \ lend \ me \ your \ pistols.$ (Lord Lytton, $Night \ and \ Morning, \ V. \ ix$)) 、形容詞述語が示す特徴が内在する「場所」、言い換えれば、そうした特徴が生じる「起点」を表すようになったと提案したい。つまり、of は、「優しさ」「親切さ」が内在する「場所」であり、そうした特徴が生じる「起点」を表すのである。

5. Stowell (1991) の問題点

Stowell (1991) は、随意的な of 挿入を想定し、is kind [you] [to help me] のような構造から、3 タイプの文 (i.e. *It is kind of you to help me, To help me is kind of you, You are kind to help me*) を派生させている。of 挿入が適用され、虚辞が主語位置に生起すれば、1番目のタイプが派生される。of 挿入が適用され、 to 不定詞節が主語位置に移動すれば、2番目のタイプが派生される。 of 挿入が適用されず、 you が主語位置に移動すれば、3番目のタイプが派生される。

しかし、Stowell の分析では、3タイプの文が同じ文法性を示すことになり、(10) のような対比が説明できないという致命的な問題点が生じる。さらに、随意的な of 挿入のような操作は、現行のミニマリスト統語論では、No-Tampering Condition や Inclusiveness Condition の違反となり認められない。

- (10) a. It was stupid of Tracy; for her; to spend all the money. (cf. It was kind of you; that you; took so much trouble.)
 - b. *Tracy_i was stupid for her_i to spend all the money. (cf. *You_i were kind that you_i took so much trouble.)
 - c. For Tracy_i to spend all the money was stupid of her_i. (cf. That you_i took so much trouble was kind of you_i.)

6. aP-shell 構造と部分的コピー削除 (Partial Copy Deletion)

本構文の派生を説明するために、形容詞述語 A が、(11) のように aP-shell 構造を成すことを提案する。 つまり、A は、最初に「行為」を表す CP と併合し、その後「人物」を表す PP(= of NP) と併合する。前者が A の補部の位置、後者が A の指定部の位置に存在している。A は a に繰り上がり、複合体を成す。

- (11) $[_{aP} a [_{AP} [_{PP} \text{ of you}] [[_{A} \text{ kind}] [_{CP} PRO \text{ to take so much trouble}]]]]$
- この構造を採用すれば、(12a,b)のような文をうまく排除できる。of NP だけが残留できないからである。
 - (12) a. *It is kind to take so much trouble of you.
 - b. *How kind to take so much trouble it is of you!

さらに、of NP が共起する形容詞述語が、「人物」と「行為」の両方を評価する形容詞に限定される事実より、of NP が一種の心的極性語 (mental polarity item) として機能し、 (13) の条件に従うことを提案する。

- (13) of NP は、「人物」と「行為」の両方を評価する形容詞に構成素統御されなければならない。 この条件を採用すれば、(14a-e) のような文をうまく排除することができる。
 - (14) a. *Of you it is kind to take so much trouble.
- b. *Of you to take so much trouble is kind.
- c. *Of whom is it kind to take so much trouble?
- d. *Who is it kind of to take so much trouble?

また、 (15a,b) を (15d) と同様にコピー理論により派生させるためには、英語にも部分的コピー削除 (partial copy deletion) の操作が必要であることを提案したい。この操作は、ペアとなる 2 つのコピーにおいて、部分的な構成素の削除が許され、不連続な排出現象 (discontinuous spellout) を説明するものである。

- (15) a. How kind it is of you to take so much trouble!
- b. How kind of you it is to take so much trouble!
- c. *How kind of you to take so much trouble it is!
- d. How kind of you to take so much trouble!
- (15c, d) の対比については、「虚辞がその相関句に先行しなければならい」という条件により説明される。

引用文献

1. Bolinger, Dwight L. (1977) *Meaning and Form*, Longman, London. 2. Hornby, A. S. (1975²) *Guide to Patterns and Usage in English*, Oxford University Press, London. 3. Silva, Georgette and Sandra A. Thompson (1977) "On the Syntax and Semantics of Adjectives with 'It' Subjects and Infinitival Complements in English," *Studies in Language* 1: 1, 109-126. 4. Stowell, Timothy A. (1991) "The Alignment of Arguments in Adjective Phrases," *Syntax and Semantics* 25: *Perspectives on Phrase Structure: Heads and Licensing*, ed. by Susan D. Rothstein, 105-135, Academic Press, New York. 5. Wilkinson, Robert (1970) "Factive Complements and Action Complements," *CLS* 6,425-444.